

早稲田大学理工学術院の授業で NEXT Logistics Japan（株）代表の梅村が特別講義

2024年12月13日（金）、早稲田大学理工学術院（基幹理工学部・社会文化領域）講師である嶋根政充先生の授業「企業行動と経営」に、NEXT Logistics Japan株式会社（以下、NLJ）代表の梅村が講師として登壇しました。起業や会社経営などに興味のある学生約200名が受講し、授業の最後には多くの質問も寄せられましたので、その様子をご報告します。



▲ 講義の様子

- ・『皆で運ぶ、物流の未来 – NEXT Logistics Japanの挑戦 –』
- ・2018年に設立以来、日本を代表する企業と共に物流の社会課題解決に取り組んできたNLJの活動

▲ 授業終了後

授業終了後も学生から熱心な質問が寄せられました。

梅村から学生の皆様へのメッセージ & 質疑応答より抜粋

社会課題を解決することにビジネスとして挑戦し、それを持続可能にしていくことは難しいですが、そこにあえてチャレンジすることには大きな面白さがあります。また、1社だけでは限界があるので、輪を作りみんなで一緒に取り組んでいくことが大切です。その挑戦を助けるのがテクノロジーですが、ただ技術を追求するだけでなく、テクノロジーを使って何を解決するのかを考えることが重要です。さらに、技術の組み合わせや使い方を工夫することで可能性は広がります。皆さんがこうした挑戦に加わり、共に新しい道を切り拓いていくことを期待しています。



Q.社会課題を見つけるのが難しい。どうしたら見つかる？

以前の私の仕事は「トラックを売ること」でしたが、その際に大切にしていたのは、お客様が何に困っているのか、その本質を見極めること。特に、トヨタ式課題解決手法の「なぜ？」を5回繰り返す「なぜなぜ分析」は、真因を追求するのに有効です。お客様と向き合い、「なぜ？」を繰り返すことで、根本的な課題が見えてきます。普段からこの姿勢を意識すれば、社会課題やビジネスの種が見えてくるはずですよ。

Q.物流最適化ソリューション「NeLOSS」を作ったあと、今後取り組んでいくことは？

NeLOSSシステム導入に必要なデジタル化があまり進んでいないのが物流業界の現状。生産工程はデジタル化されていても、出荷時には紙やFAXでのやり取りが残っています。今後は物流業務全体のデジタル化が必要で、私たちがやるべきことはまだまだ多くあります。